

保育の實際

幼兒に對しての説話ぶり

双葉女學校保母 後藤りん

天皇陛下の御話に就て

今日は、皆様の、大々お好きな、天皇陛下の御話をいたしませう、陛下は何麼な御附きをして入らつしやいますか……又御服装は何麼な御服装で入らつしやいますか、幼陸軍大將の御服さうです天皇陛下は此日本の國で第一等のお豪いの方で、それで陸軍と海軍との總大將で入らつしやるのですよ、此繪のお服装は大元帥のお服装でお帽子と、お腕の金筋は何本ございませうね、一ツ皆さんと一所に數へて見ませう、一二三四五六七……七本、澤山で入らつしやることねと申しますと、(其時黑板畫ニテ、一寸海軍大將ノ) 服装ヲ示シ對照サセルモヨロシ

幼兒『ヤー豪イナート』非常に感心する……『陸軍

と海軍の大將だつて……『僕も今に天子様になるのだ』と頻に、りきみ出します(此時保母は幼兒相應なる注意を興へよ)『譬へば如何程皆さんが豪くとも天子様にはなれません、して天子様になるのには天皇陛下の御子様か、さもなければ宮様方が御位に即かれるのであると言ひ聞かせ、若し二や一の組なれば殿下及び皇族方のお肖像を拜させて其御方々の話にうつるも宜し』併し大將までになら、誰でもなれるのでありますから、早く成人なつて、大將のやうな立派なお方におなりなさい、其時には先生はお婆あさんになつて杖をついて、皆さんの御家へ御馳走になりに入りますから、何卒澤山御馳走をして下さいよと申しますと、幼兒は、大得意になつて『エ、入らつしやい、屹度ね、本當にですよ』念を入れて申します『其愛らしさ、嬉ばしさ、思はず涙かこぼれます』今話の中に日本と云ふことがありますが三の組あたりでは日本とは何の事だか分らないのですか、

「一體何んのことですかと問ふて御覽なさい」ン
 レハ、面白くことを申します、三の組あたりは
 陛下の御肖像を拜見する位で澤山です（さうして、
 皆さんの阿父様や阿母様や、先生や、貴君方も、
 皆一ンナ、天皇陛下のご臣下なので、それで、あ
 りますから、天子様のおつしやることはなんでも
 よく言ふことを聞いて決して背くことは出来ない
 のであります、今度の戦争で日本がロシアに克つ
 たのも、天子様がお豪い上に亦臣下が君の爲め國
 の爲めに、一生懸命に働いたから、それで捷つた
 のです、それですから、皆さんも早く成人なつて、
 身體を壯健に、それで勉強もして、大將のやうな、
 立派な豪いお人におなりなさい、そして今よりも、
 モット、強い日本にしてあげなければなりません
 ン、（幼児ハ何デモ豪イコトハ大將ダト思ツテ居リマスカ）こ
 ゝで二の組や一の組になりますと、日本國は露國
 よりも小なること、日本人は西洋人よりも小さい
 こと、それで日本は強いわりには貧乏であること、

支那や朝鮮、ロシアは隣國で在ること、（丸玉デモ宜
 ツ黑板ニ大小及距離ナドチ示シテ、）又日本は正義の國で
 口眞似手眞似テ形容シテヤルベシ、）あるから、弱を扶け、強を挫くの勇あること、日
 本と同盟した英國は、世界第一の強國であること、
 日本は今迄東洋の日本でありしが、今度の戦争か
 ら、世界の日本に成つたこと、なぞ極く簡単に面
 白く、感情的に話てるべし、それは、幼児は
 思はず拳を固めて、りきみながら、知らず識らず
 乗り出して聴いて居ます

「ナニニ意惰ものだからさ」
 「それだつて勉強しないで遊んで許りいるか
 らさ」
 「ナニニ、サウジャーナイ、黒バンばかり齧
 つているからさ」

又中には天子様も弱虫で威らくないから負けるのだよ、なぞと隣りの人と口論して終りに、ネー、先生と云て訴へにくる實に一場の活畫です

其時先生は除々口を開ひて、いや、天子儀に何處の天子様でもお弱い方は一人も無い、皆んなお豪いのであるが、唯、臣下の内に天子様の御仰をきかぬ人があるから、幾ら大きな國で兵隊や軍艦が澤山あつても負けるのです、日本はさうでない、宛如、反對なので、そして第一天子様のお仰に背くやうな人は只の一人も無い、皆一人な共同一致して君の爲め、國の爲めにお命を惜まます働くから、何時何處と戦争をしても負けることはないのですと云ふと、皆大得意になつて愉快さうに威張つて居る

今日も亦天皇陛下のお話とせまる
それでは亦いたませう、陛下の御家のお庭はそれほく擴い、お池もあれば瀧もあり、山も

あれば流れもあり、鯉も居れば金魚も居るし、松もあれば竹もある、梅もあれば櫻もあり、美しい花は澤山に咲いて居り、鶴や龜や、孔雀や鳩、愛らしい小鳥は嬉しさうな、聲を出して、彼方此方に飛びまはつて居る、又御殿の方も、それはく廣く立派で、神々しいばかりに壯麗でありますし又お橡側の長いこと、廻り廊下が、ズート何十間だか分らぬ、此幼稚園を十も二十も合せた位、二階も三階も、ドレモ皆見晴しの好いお坐敷ばかりで、お女中やご家來なども澤山く居りまして、なぞと、順次興味を添へて話し聞かせますと、幼兒「ア、僕も往て見たことがある、阿父さんと一所に」と言ひ出す

ア、「さうでしたか、それでどんなでしたか」と問ひ返へすと幼兒「僕が往て見た時には天子様がお庭で運動をして居らつしやつた」なぞと答へる、如何にも其答への面白きこと一同覺えず破顔一笑を催すことがある。

此の所で實物或は繪で花鳥をみせ、之に就て色々
の話をしたり、保母と互に鳥の啼き真似などをし
て居ても一日の仕事はあります

他日又陛下のお通りの話をせよと

せまる

御旗の話、御紋の話、御服装の話、侍従の話、お
馬車の話、車内の御様子、果ては陛下のお顔つき
やら、侍従の御年輩、前驅者、別當、騎兵の話な
どを、手真似、口真似もて、なるべく簡單に興味
を添へて如何にも今目前に陛下のお通りあるやう
説き聞かせ、終りに拜觀人の注意にまで及ぶ「さ
あ、皆さんも君が代を唱ふて御祝ひ申上げませう」
と云ふと皆々保母の真似をして嚴然と起立しま
す、君が代二回合唱(如何にも愛らしき中に自づ
と威張つて唱ふさま、いと殊勝)「什麼も皆さんの
様な可愛らしい、お顔でお行儀よく、お通りを拜
見して、君が代を唱ふてお目に掛けたら、嘸かし、
天皇陛下は、お馬車のお窓から、お顔をお出しな

さつて、お嬉しさうに、覽て居らつしやるでせう
かと、言ひますと、或る幼児の一人「僕も此間天
子様のお通りを拜見したら、天子様が窓から顔を
出して僕の顔見て笑つて居たよ」と、すましこん
で言ひ出した(此時保母ハ幼児ノ言葉)
「それは、よかつたこと、安さんの様な、エライ良い兒が今におほ
きくなつて、此の日本の國を今より、モット〜
強い國にして呉れるだらうと、天子様は喜んで
居らしたのでせう、それですから皆さんは、阿
父さんや、阿母さんの言ふことを能くお聞きなさ
ると同じ様に、天子様の仰しやることは、聊かも、
背かぬやうに爲さねばなりません、と話しきかせ
ますと、皆大満足の様子です
兒童は漸が好きですから、決して厭きすることはあ
りませんが、天候と共に兒童の現況を見計らひ、
或る時は繪を見せたり、描ても見たり、手技や、
積みや、板排べで、隨意應用させて、ご覧なさい、
充分胸に這入て居ますから、内外共に何の遊戯に

でも盛に應用して遊びます
 右の話の内にある、兩陛下。兩殿下。各皇族方の
 御旗。各條約國の旗印は日本國にて重要と認む
 る旗印。果ては諸信號旗の隣國の天皇陛下、日、
 露、清、兵隊の對照。日本軍艦の種別、海陸軍の
 對照。及各任務。或は武器。及び使用法等、幾等
 でも聯絡、敷街が出来ますから保母たるものは成
 る可く識見を博くして何時でも兒童の問に答へ得
 るだけの用意を備へられんことを希望する
 たれ
 誰でも熟練の少いものが話をすると、直に小兒を
 大人に見て話されますが、實に幼兒に對しての話
 し方は他見には馬鹿くしく見ゆるくらい、自分
 も小兒になつて話して貰ひたい、そして出來得る
 限り感情的に復た幼兒が日頃親しく觀察して居る
 ものから、即ち既知より未知に進んでゆきたい、
 且つ又土地の狀況と幼兒たちの身分にも依る、
 なせなれば橋を知らぬ兒に橋の話をして、少も
 感じが無い、又上流の兒に向つて「ナンダ、テメ

四四
 くガ、ワルインジャーネーカ」と云ふ様な口調で
 は話ても薩張り譯が解らぬし、又下流の見に向つ
 て「アナタ、オヨシ、アンバセ」では是亦聊の
 興味を持たぬ、諺に人を見て法を解くとあります
 が實に其通りであります

寄稿 募 集

保育の實際を記したる原稿を御寄せ下され度
 願上候

積木遊びの實際

粘土の實際

豆細工の實際

繪畫觀察の實際

など何んでも宜しう御座いますからなる可く

詳しく御記載下され度御願申上候原稿用紙御

入用の方には御一報次第御送申上候宛名は

東京市小石川區竹早町三四

和 田 實

と御記し下され度毎月の締切は廿日に御座候